

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 6 日現在

機関番号：32612

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22520149

研究課題名（和文）18 世紀後期ベルリンにおける、1750 年以前の対位法作品への関心についての再評価

研究課題名（英文）The Late 18th-Century Berlin Manuscript Copies of Contrapuntal Works by the Composers of the 17th and the Early 18th Centuries

研究代表者

石井 明（ISHII AKIRA）

慶應義塾大学・経済学部・教授

研究者番号：00317273

研究成果の概要（和文）：本研究は、18 世紀後半、ベルリンで写された、16・17 世紀に作曲された対位法が用いられた音楽作品を収めた写譜と、これらを記した写譜師を研究対象とし、彼らの活動を明らかにすることで、ベルリンで活躍したエマニュエル・バッハなどの音楽家たちが抱いていた、過去の音楽に対する関心について具体的に把握し、さらには、ベルリンでの過去の音楽に対する興味が、その後音楽の歴史に影響し貢献していったということを明らかにしていくものである。

研究成果の概要（英文）：The Berlin musicians and music lovers in the second half of the eighteenth century copied a number of contrapuntal compositions by the composers of the previous generations. The level of appreciation for contrapuntal compositions by the composers of the past was high. The person who began disseminating such music must have been in a position where he could enlighten his fellow musicians on the music of the past. The research has indicated that this person could have been Carl Philipp Emanuel Bach. The musician who was responsible for teaching Emanuel Bach the significance of the music of the composers of the previous generations was no doubt his father Johann Sebastian Bach.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010 年度	700,000	210,000	910,000
2011 年度	800,000	240,000	1,040,000
2012 年度	500,000	150,000	650,000
総計	2,000,000	600,000	2,600,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：芸術学、芸術学・芸術史・芸術一般

キーワード：バロック音楽・フローベルガー・フレスコバルディ・バッハ・ベルリン・テレマン・鍵盤音楽

1. 研究開始当初の背景

18 世紀半ば以降のドイツ・ベルリンでは、

プロイセン王フリードリヒ二世の擁護の下、音楽芸術の大きな発展を見た。そこには多くの音楽家たちが集まり、オペラ、協奏曲、交響曲、室内楽、鍵盤音楽などのジャンルにおいて、無数の新しい音楽が創造され、北ヨーロッパ随一の音楽都市へと発展していった。

新しく創られる音楽作品が音楽活動の中心を占める中、ベルリンの音楽家たちは、過去の音楽、特に、高度な作曲技術を要する対位法の音楽に強い興味を示した。このことは、フリードリヒ・ヴィルヘルム・マールブルク、ヨハン・フィリップ・キルンベルガーなどが、対位法について詳細に述べた著作をベルリンで出版したことなどにも反映されている。

過去の音楽に興味を持っていたベルリンの音楽家たちに最も強い影響を与えたのは、ヨハン・ゼバスティアン・バッハであった。バッハはベルリンを拠点とすることはなかったが、対位法の音楽を教材として用い、やがてはベルリンに集まってくることになる音楽家たちをライブチヒで育てていた。是バスティアン・バッハから教育を受けた音楽家には、1768年までフリードリヒ大王の宮廷音楽家であった次男のカール・フィリップ・エマニュエル・バッハ、1774年から晩年をベルリンで過ごすことになる長男のヴィルヘルム・フリーデマン・バッハ、さらには、ベルリンで職を得ることになるキルンベルガー、ヨハン・フリードリヒ・アグリコラなどの弟子たちが含まれる。ベルリンにはさらに、バッハの死後、兄のエマニュエル・バッハに引き取られるヨハン・クリスチャン・バッハや、フリーデマン・バッハの弟子であったクリストフ・ニッヒェルマンなどもやってくる。

このような環境下のベルリンで写譜された過去の対位法の音楽作品は、ヨハン・ヤコブ・フローベルガーやジローラモ・フレスコバルディなどの、17世紀を代表する作曲家に

よる対位法を用いた鍵盤音楽作品が含まれていた。これらの作品を写譜したのは、ゼバスティアン・バッハだけでなくエマニュエル・バッハやフリーデマン・バッハの作品を多く複写した音楽家または写譜師であった。彼らはまた、他の作曲家による作品も数多く複写している。しかしながら、これら写譜師については、バッハ一族による音楽作品の観点から研究対象となることがあるが、彼らが写譜したその他の作曲家による作品、特にゼバスティアン・バッハ以前の作曲家についての研究はあまり行われてきていない。そこで本研究は、これら写譜師のうち、ヨハン・ヤコブ・フローベルガーとジローラモ・フレスコバルディの作品を複写した6名の写譜師に焦点を当て、彼らが他にどのような音楽作品を複写したのかということを経験的に把握し考察することにより、当時のベルリンの音楽家たちによる、過去の音楽への関心についての理解を深めていくことを目指すこととした。

2. 研究の目的

本研究は、18世紀後半、ベルリンで複写された、16・17世紀に作曲された対位法を用いた音楽作品を収めた写譜と、これらを書いた写譜師を研究対象とし、彼らの活動を明らかにすることで、ベルリンで活躍したカール・フィリップ・エマニュエル・バッハなどの音楽家たちが抱いていた、過去の音楽に対する関心について具体的に把握することを目的とした。

3. 研究の方法

本研究では、ヨハン・ヤコブ・フローベルガーとジローラモ・フレスコバルディの対位法作品を18世紀後半に複写したことが判明している6名の写譜師に焦点を当て、彼らが他にどのような音楽作品の複写をしていたのかを、主にベルリン州立図書館で保管され

ている写譜を検証することで確認することとした。そしてここから、ベルリンの音楽家たちが、どの範囲まで過去の音楽に対して関心を寄せていたのかを把握することとした。また、それぞれの写譜師たちが、当時活躍していた音楽家、例えばエマニュエル・バッハやキルンベルガーなどどのような関係を持っていたのかを明らかにし、さらには、過去の対位法作品を収めた写譜それぞれの間に存在する関係を分析することで、どのような経路で、複写を依頼したベルリンの音楽家たちが過去の音楽作品を入手していたのかを考察することとした。

この研究においては、主にこれまでの研究者によって公開されている、ゼバスティアン・バッハや彼の息子たちについての膨大な情報の収集・整理を行うということと、主にドイツで保存されている、18世紀後半に書かれた、18世紀以前に作曲された対位法作品の写譜を直接観察・検証することをも研究手段とした。

4. 研究成果

調査の結果、ヨハン・ヤコブ・フローベルガーやジローラモ・フレスコバルディによって、17世紀に書かれた音楽作品を複写した写譜師たちは、ヨハン・ゼバスティアン・バッハ以外の北ドイツの主要作曲家によって、18世紀前半に書かれた対位法を用いた音楽作品も写譜していたことがより明らかとなった。この中には、バッハ一族と親交のあった、ゲオルク・フィリップ・テレマンも含まれていた。テレマンは、特にエマニュエル・バッハと親密な関係があったことから、18世紀後期のベルリン写譜師によるテレマン作品の写譜の存在は、ベルリンの音楽文化活動の中における、エマニュエル・バッハの存在の重要性を明確に示していることが確認された。

いずれにおいても、18世紀後期ベルリン

において、過去の音楽、特に対位法が用いられている音楽作品の写譜と啓蒙活動は、カール・フィリップ・エマニュエル・バッハの存在が不可欠であったことが明確となった。エマニュエル・バッハによって始まったとも言える、ベルリンの音楽家および音楽愛好家たちの間で広がった過去の音楽への関心は、エマニュエル・バッハがベルリンを去った後も続いたことが判明した。そしてこのような状況は、やがて19世紀初頭に見られるようになる、ヨハン・ゼバスティアン・バッハによる音楽作品の再評価への流れを生むこととなることが明らかになった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

① Akira Ishii, "Johann Sebastian Bach, Carl Philipp Emanuel Bach, and Johann Jacob Froberger: The Dissemination of Froberger's Contrapuntal Works in Late Eighteenth-Century Berlin", *Bach: Journal of the Riemenschneider Bach Institute*, 査読有り、44号、2013、掲載決定

〔学会発表〕(計2件)

① 石井明、「18世紀後半のベルリンにおける対位法が用いられた音楽作品の受容—テレマン作曲カノンによるソナタ作品5のベルリン写譜の検証」、日本音楽学会第63回全国大会、2012年11月25日、京都西本願寺聞法会館

② 石井明、「新しく発見されたフレスコバルディ写譜から見る、18世紀後半のベルリンにおける『古典音楽作品』の受容」、日本音楽学会第61回全国大会、2010年11月7日、愛知芸術文化センター

6. 研究組織

(1) 研究代表者

石井 明 (ISHII AKIRA)

慶應義塾大学・経済学部・教授

研究者番号：00317273

(2) 研究分担者
なし

(3) 連携研究者
なし